



## 最優秀賞 日本で母親になって 林 琳さん(在日5年3カ月)

みなさん、こんにちは。林琳と申します。去年の5月に子供が生まれて、私は母になりました。この会場にはお母さんもたくさんいらっしゃるでしょう。もちろん、お母さんにならない男性の方も。でもみなさんお母さんがいて、私達がここにいます。その気持をもってどうぞ私の話を聞いてください。今日は、日本で母親になって考えたことについてお話をしたいと思います。よろしくおねがいします。

まず、産後の過ごし方ですが、日本と中国には様々な違いがあることに気づきました。

私が出産した時、母が日本に来て世話をしてくれました。私の生まれ育った中国の北の地方には、漢方の考え方で、産後1か月の習わしがあります。例えば、「外出しない」

「長時間本を読まない」「風に当たらない」「冷たい物を口にしない」など、ほかに、水に触ってはいけないため、1ヶ月もシャワーやシャンプーをしない人も珍しくありません。一方日本では産後1週間ほど病院で過ごしてから、元の生活に戻るのが普通です。私は出産の翌日からシャワーを浴びました。病院食には冷たいサラダやヨーグルトも付いていました。これには母は驚いて、「食べたらだめ、お乳が出なくなる！」と言って、病院食の冷たいものは全部母が食べてしまいました。このように、母の言う中国式の産後の過ごし方は頭の片隅に、郷に入っては郷に従って、産後生活を快適に過ごせました。

次に子育てについてです。日本に来る前、日本の女性は結婚すると専業主婦になるんだと私は思っていました。実は日本では今、子供を保育園に預けて仕事に出る女性が増えています。つい最近になって、育児を手伝う「イクメン」も増えてきましたが、やはり、基本的に母親が子供の面倒を見るのです。中国はどうでしょうか。中国は男女共働きが主流です。しかし、2歳未満の子供を預かってくれる保育園はないため、ベビーシッターを雇ったり、祖父母に育ててもらったりするのが一般的です。我が家では、母が中国に帰った後、主人と2人での育児生活が始まりました。私は博士課程の研究を続けるために、保育園の申し込みをしましたが、結果は「待機」でした。待機期間中、徳島ファミリーサポートセンターの保育援助を受けることになり、安心して子どもを預けられました。それに、子どもを通して、新しい知り合いもできて、本当にありがたく思いました。

妊娠がわかってから今まで私は、「日本社会に守られている」と感じました。例えば妊娠初期に配付されたこちらの「マタニティーマーク」と「駐車場利用証」が大変助かりました。また、健診は無料で受けられた上に、分娩にあつたては補助金ももらえました。とても温かく、心強い支援だと思いました。さらに、たくさんのお見知りの方の心遣いに出会いました。スーパーで店員さんが私のために商品をレジ袋に詰めて車まで運んでくれて一言、「大変だと思いますが頑張ってくださいね」、マンションの隣のおばさんは会うたびに「いつでもええけん、呼んでな、すぐ飛んでい

くわ」と声掛けが、こうして私は、「徳島で安心して子どもを生んで育てられる、幸せだな」と思っています。

これから私は徳島にずっと住んで、この社会の一員として生きていこうと思っています。そして日本人の夫と一緒に、日本文化と中国文化の両方が分かる子育てをしていきたいと考えています。将来、私たちのような国際結婚の間で育つ子供たちが、徳島と世界をつなげるグローバルな人材として活躍してくれることを望みます。これは私が母親になって子育てをして初めて持った夢です。みなさんお願いします。多様な文化的背景を持つ人を受け入れ、お互いに理解し合い、助け合っていくなかで、みんな子育てをしながら、暮らしやすい徳島にしていくこと。これこそ、徳島に重要なことと言えるのではないのでしょうか。

## 徳島県議会国際交流議員連盟会長賞

### 互いに異なる文化を理解し合おう

王 挙梅さん（在日4ヵ月）

私は中国から来た王挙梅と申します。私は日本という外国に来てこう感じました。世界には全く同じ文化はありません。実際にお互いの文化が異なる事により矛盾が生じていると言うことが少なくないようです。それが原因で、戦争になることさえあります。文化の違いと言うことを言えば、「YES」という意味でうなずくことがほかの国では「NO」という意味になってしまう

うかもしれません。自国では当たり前なことなのに他国では常識はずれになることもあります。日本に来たばかりのころ、私が実感したことは、電車の中で静かにすること、狭い道でも信号があり、道は左側通行、自転車は歩道、エスカレーターは右側に立つことでした。ちょっと気をつけないと、いいえ、十分気をつけていても、国が違くとルール違反になってしまうこともあります。私は中国で何年間も日本語を勉強してきました。日本に来てから、まだ四ヶ月ですが、教科書の中でいろいろ勉強したことでこの身で実感してみて分からなくなることがいろいろ出てきます。

中国と日本の関係は、よく「一衣帯水」といわれます。また、地図から見れば、お互いに引越できない隣国であることが分かります。しかし、お互いに理解し合うためのかけ橋がかけられていません。去年東京に一週間行き、帰国した後、ある友達に、日本にいた時に苛められたことはなかったかと聞かれました。私は苦笑いしながら、「そんなことある訳無いじゃん」と答えましたが、その時の友達の分かったかどうかとも判断できない不思議な表情が今でも印象深く残っています。と同時に、中国人が乱暴で、非常識な人たちだと思っている日本人も少なくないでしょう。グローバル化が進んで、世界が一つの村に例えられる今、すぐ隣同士にある日本と中国がこんなに深刻な誤解に陥っているのは余りにも悲しくて、おかしいのではないのでしょうか。お互いの文化を理解しようとしなくて、こんな誤解をいつまでも持ち続けていてはなりません。



世界には異なった文化が多く存在します。そのどれが良い文化か、どれが劣った文化か、そういう区別はないと思います。すべての文化はその国のシンボルであり、誇りでもあります。決して自国の文化とは異なる文化を見下すわけには行かないのです。自分の視点ではなく、相手の視点から見れば、その異なっているところ、不思議だと思ったことも当たり前になるかもしれません。とっさには理解できないことでも、「郷に入れば郷に従え」ということわざにもある通り、他国の文化の良さを理解して、尊重の態度を示すべきです。異なる文化があつてこそ世界の文化はカラフルになります。それぞれの国の文化は人類全体にとって欠かせないのです。違いがあつても、お互いに理解し合おうとする心があれば、それに向かつて第一歩を踏み出す勇気があれば、誤解もだんだん消えて平和な世界が実現すると思います。

さらに、他国の文化に触れることで、もっと自国の文化を理解することもできます。英語と日本語を勉強したことで中国語の特徴や魅力が分かりました。また、人形浄瑠璃を鑑賞したとき、中国の人形芝居と伝統文化の精華である京劇を思い出しました。これを日本の大学生に紹介しようと思いましたが、それらについて何も言えませんでした。私は母国の文化がわからないことが恥ずかしくなりました。だからこそ、心の中で、もっと自分の母国中国のことに注目し、学ぼうと決心しました。

日本で生活する日はだんだん減っていきました。残り僅かな日本生活で、もっと日本人と交流して、日本の文化に触れたいと思います。日本文化に対しては、客観的な態度でよいところを学び取り、中国文化に対しても、好いところを受け継ぎ、好くないところを改めるようにしなければなりません。

私は中日両国の人がお互いにもっと理解できるようにこれからも頑張りたいと思います。これが日本に留学した中国の大学生としての、私の使命であり、滞在中優しくして下さいった日本人への恩返しでもあると思います。

ご清聴どうもありがとうございました。



主催 公益財団法人 徳島県国際交流協会  
共催 徳島地域留学生交流推進協議会  
協賛 徳島県議会国際交流議員連盟 阿波銀行 徳島銀行 徳島商工会議所  
徳島市国際交流協会  
後援 NHK 徳島放送局 四国放送 徳島新聞社 ケーブルテレビ徳島 エフエム徳島 エフエムびざん